

[クラス ID]CS472910

[BIM を活用した現場力と関係者間のコミュニケーションの融合]

[スピーカー名] 林 征弥

[スピーカーの勤務先] 東急建設株式会社

[共同スピーカー名] 邊見 一考 江川 暁子

[共同スピーカーの勤務先] ともに東急建設株式会社

学習の目的

- BIM360 を活用したステークホルダーとの効果的なコミュニケーションの取り方を知る。
- Revit データを活用した温熱環境の可視化のメリットを知る。
- Revit データと 3D プリンターを連携した施工方法の効果的な検証方法を知る。
- BIM データを活用した作業効率のよい建方精度管理の方法を知る。

説明

“本物の良さを本物で伝えたい”という『ROOFLAG 賃貸住宅未来展示場』の「発注者の熱い想い」は、CLT(Cross Laminated Timber)を用いた伝統的かつ未来を彷彿させる木造屋根の大空間のデザインに込められた。日本の都市部では、ほぼ初めてとなる大空間屋根構造に CLT が採用され、かつ特徴的格子デザインと防火性能の融合を図る必要性から、高い施工技術が求められる。当社では施工と技術部門一体で課題解決のフロントローディングをスタートさせた。特に①緻密な CLT 仕口納まり、②CLT の組み立て手順と工期、③傾斜した三角形の屋根と外装システムとの納まり、④CLT 組み立て施工手順とその精度、⑤CLT 架構体の安全性、など施工上避けては通れない複合的課題解決は手探りからのスタートとなった。また工事を進める過程においては、関係者全員での「モノ決め」を進めるため、たとえ変更が発生した場合にも複雑な建物の状況を、わかりやすく「見える化」し合意形成を柔軟に進めることに重点となった。更に環境側面のリスクとして屋根の太陽熱透過材(ガラス)採用における空間温熱環境も課題となった。当社では総合的な技術解決のために、BIM をはじめとしたデジタルの力でオフサイト建設を進めた。この内容について紹介する。

スピーカーについて

林 征弥

1988年：東急建設入社

建築部配属

施工管理業務

1992年：建築設計部門へ

医療施設・都市開発等の

設計監理業務

2017年：BIM 推進部 部長